

## 研究計画概要

助成年度・種別	2026年度 若手研究助成
研究者	雨霧 旭穂
所属	奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科
研究テーマ	女性被害者の回復を促進する心理・社会的要因の検討：被害の自己非難的帰属に着目して
研究計画概要	<p>犯罪被害者が回復し健康な生活を送るには、援助要請と適切な支援の受領が重要である。しかし被害者は被害の原因を自らの性格や行動のせいと考え、自分を責める認知を行う傾向がある。この自分を責める認知(自己非難的帰属)は支援とのつながりを阻害し、抑うつやPTSDの悪化を招き社会的コスト増にも繋がる一因となる。特に女性は生涯を通して犯罪等の被害に遭いやすく、このような帰属を行う傾向が強い。しかし日本では女性被害者を対象とした大規模研究が乏しく、累積的な被害経験や帰属スタイルの文化的特徴も明らかでない。</p> <p>そこで本研究では 18～64 歳の女性被害者約 1,000 名を対象に大規模 Web 調査を行い、自己非難的帰属の生起に影響を与える被害の実態および援助要請行動と精神的健康への影響を検討する。</p> <p>最終的に、日本人女性の自己非難的帰属の特徴および生起メカニズム、回復に有効な支援のあり方を示し、女性被害者の健康と社会参加に資する知見を提供することを目指す。</p>
選考委員からのコメント	<p>犯罪被害者の対策は、今後ますます重視されていくと思われるが、助要・支援が重要となる。本研究は、犯罪被害を自らの性格や行動のせいと考え、自分を責める認知を行う傾向(自己非難的帰属)に着目して、より実質的な被害者対策を目指すもので、女性被害者約 1,000 名を対象に調査研究を行い、日本人女性の自己非難的帰属の特徴および生起メカニズムに迫ろうとするものである。自己非難的帰属が被害回復の阻害要因をいかに取り除くのかという方向への研究の発展を期待する。</p>